

神河町 地域公共交通計画



令和6年3月
神河町

目次

1 章 はじめに	1
1. 計画策定の背景・目的	1
2. 計画の区域	1
3. 計画の期間	1
4. 計画の位置付け	2
2 章 地域公共交通を取り巻く環境	3
1. 地域の現状	3
2. 施設分布状況	7
3 章 上位計画の整理	10
4 章 地域公共交通の現状	14
1. 地域公共交通の整備状況	14
2. 地域公共交通を取り巻く状況	19
5 章 地域公共交通の利用者意向	21
1. 住民アンケート	21
2. 通学に関するアンケート	27
3. デマンド交通登録者及び利用者アンケート	31
4. 地区勉強会	37
6 章 地域公共交通の役割と課題整理	40
1. 課題の整理	40
7 章 基本的な方針と目標設定	42
1. 基本方針	42
2. 目標の設定	43
3. 公共交通ネットワークの将来イメージ	44
8 章 目標達成のための施策	45
9 章 計画の達成状況の評価	63
1. 評価指標・目標値	63
2. 施策の推進体制	64
3. 計画の評価・検証	65
参考資料	66
1. 神河町地域公共交通活性化協議会設置要綱	67
2. 神河町地域公共交通活性化協議会 委員名簿	70
3. 神河町地域公共交通計画策定経緯	71
4. 用語集	72

1章 はじめに

1.計画策定の背景・目的

神河町では、高齢化が大きく進行しており、特に町内中心地の周辺部においては、より一層高齢化・過疎化が進んでいる状況です。また、地域の暮らしと産業を支え、豊かで暮らしやすい地域づくりのためには「移動」は欠かせない存在ですが、人口減少や近年の新型コロナウイルスの影響下での公共交通利用者の減少、全国的な運転手不足の深刻化等により、公共交通の維持は容易ではなくなってきています。

地域における移動手段の維持・確保は、交通分野の課題解決のみにとどまらず、まちづくり、観光振興、更には健康、福祉、教育、環境等の様々な分野と密接に関わり、地域社会全体に大きな効果をもたらします。

こうした状況を踏まえ、本町の交通政策に関わる課題の解決、及びまちづくりと連動した持続可能な運輸サービスの提供に取り組んでいくため、「地域公共交通計画」を策定します。

2.計画の区域

本計画の対象区域は、本町全域とします。



▲ 区域図

3.計画の期間

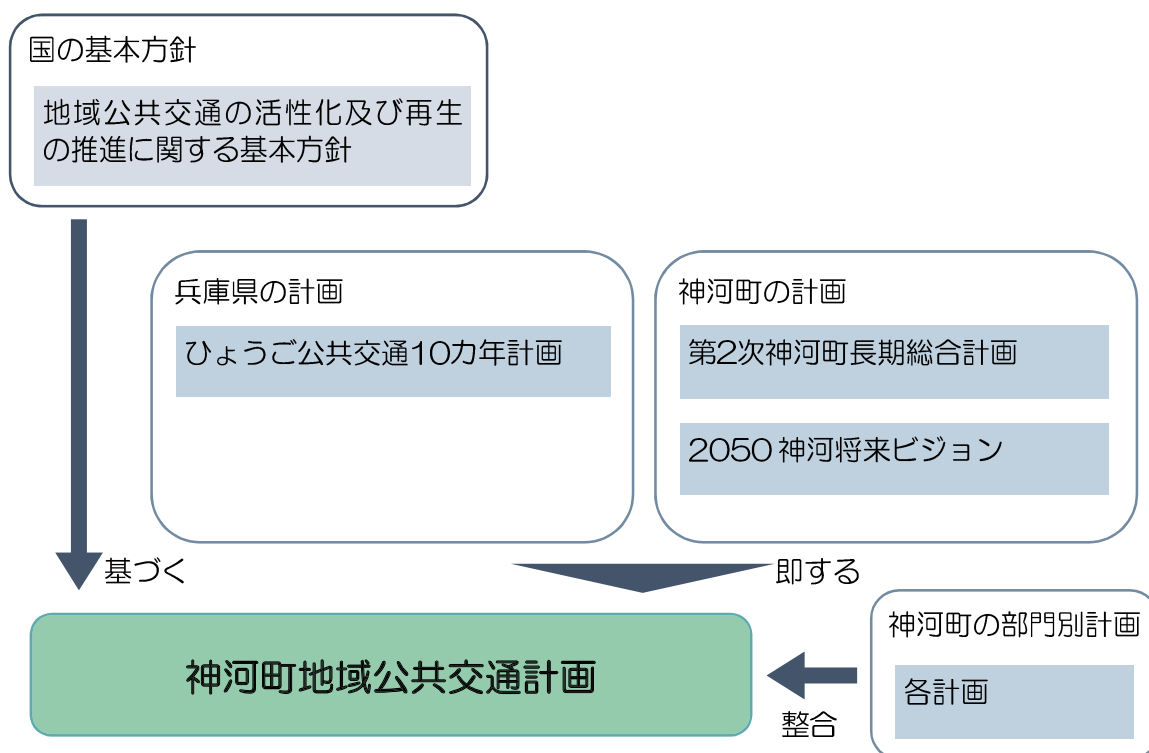
本計画の期間は、令和6年度から令和10年度の5か年とします。

なお、社会経済情勢の変化や上位計画の見直しなどがあった場合には、必要に応じた見直しを検討します。

4.計画の位置付け

本計画は、「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たすものです。国が定める「地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本方針」に基づき、地方公共団体が地域の移動に関する関係者を集めて法定協議会を開催しつつ、交通事業者や地域の関係者等との協議を重ねることで作成していくものです。

また、「第2次神河町長期総合計画」や「2050神河将来ビジョン」に即するとともに、県の計画等と適合し、他の関連計画とも整合性を図ります。



▲ 計画の位置づけ

2章 地域公共交通を取り巻く環境

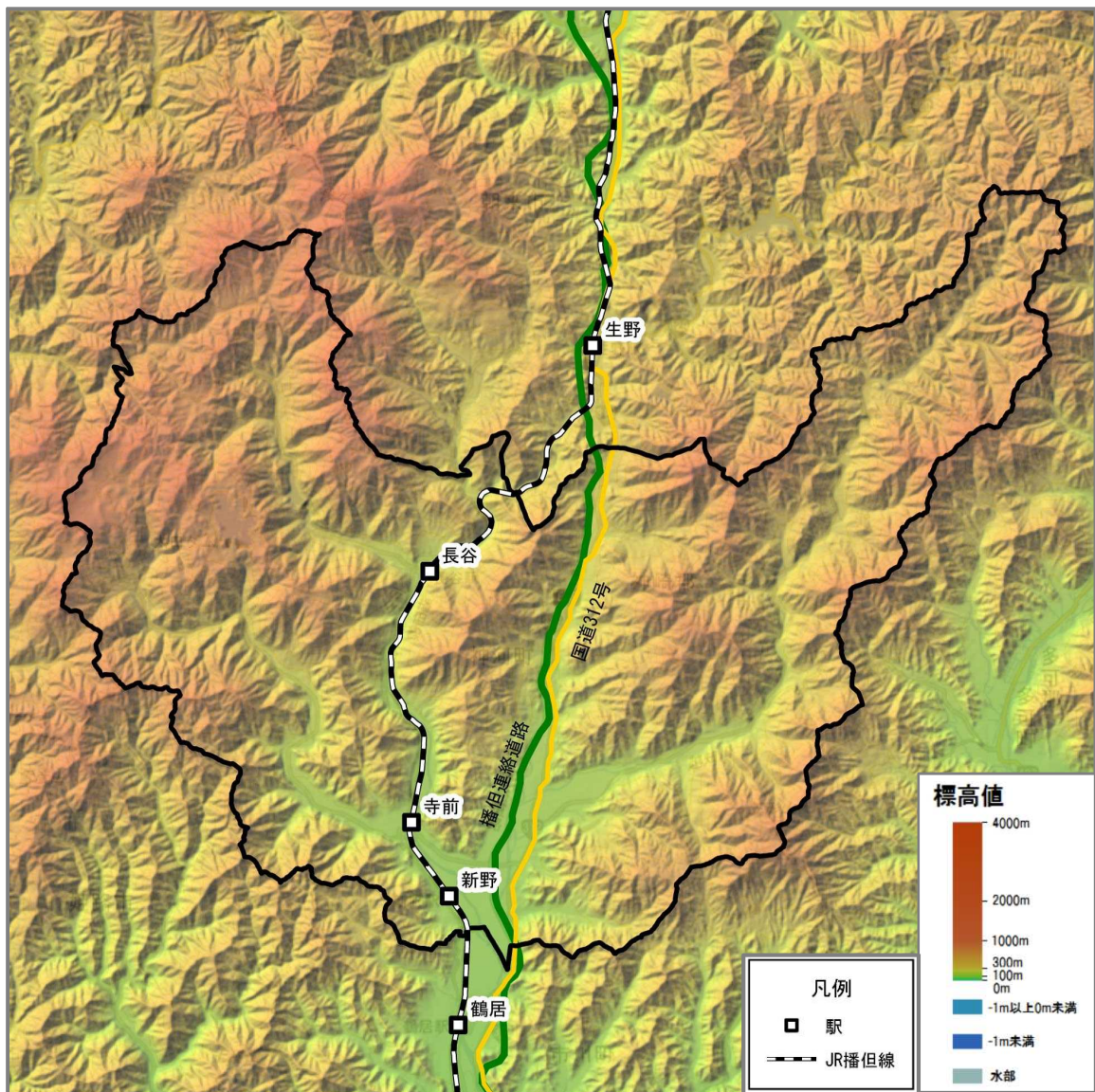
1.地域の現状

(1)位置・地勢

神河町は兵庫県のほぼ中央に位置しており、平成17年11月7日に神崎町と大河内町が合併したことで誕生した町です。

面積の約8割が山林と自然環境に恵まれており、周囲を千町ヶ峰や千ヶ峰・暁晴山などの1000m級の山々に囲まれています。

山間部の平地を中心に市街地が形成されており、南北方向にJR播但線や国道312号、播但連絡自動車道が走っています。



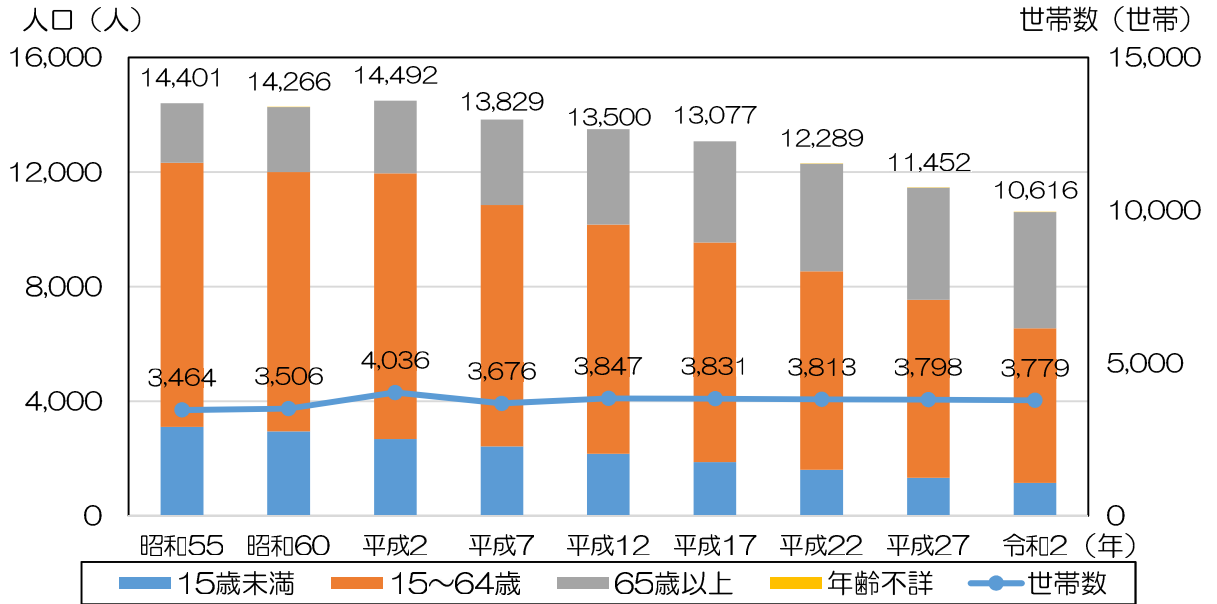
【出典】国土地理院（海域部は海上保安庁海洋情報部の資料を使用して作成

▲ 標高図

(2)人口推移

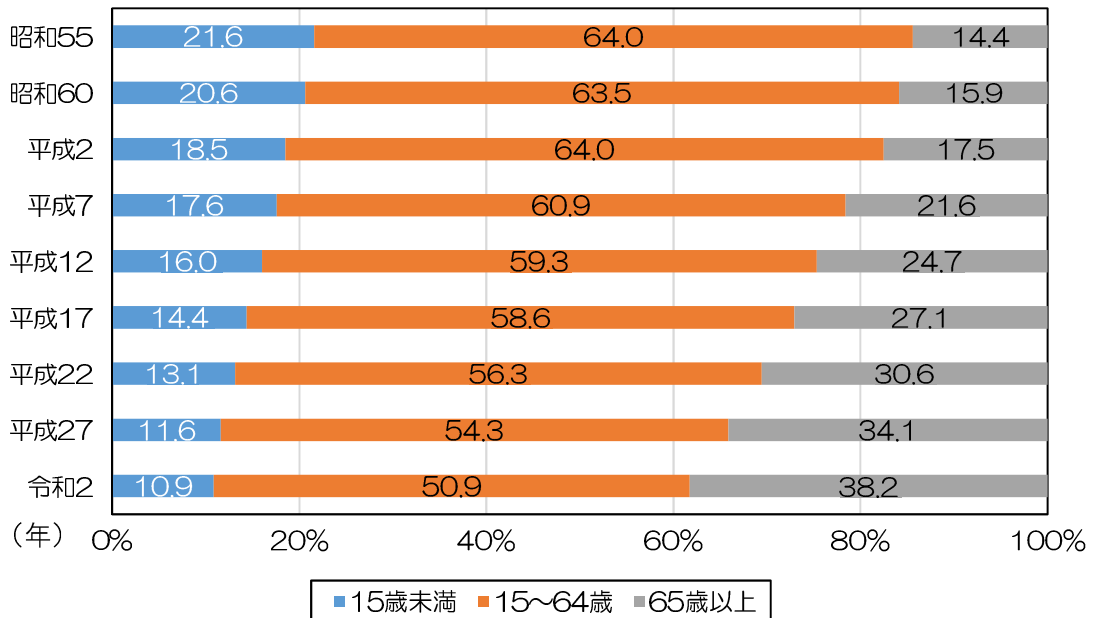
人口の推移をみると、総人口は平成2(1990)年以降減少傾向にあります。3区分別の推移をみると、年少(15歳未満)人口や生産年齢(15~64歳)人口が減少傾向にある一方、老年(65歳以上)人口は増加傾向にあり、少子高齢化が進展しています。

世帯数は横ばい傾向にあります。



【出典】国勢調査

▲ 年齢3区分別人口と世帯数の推移

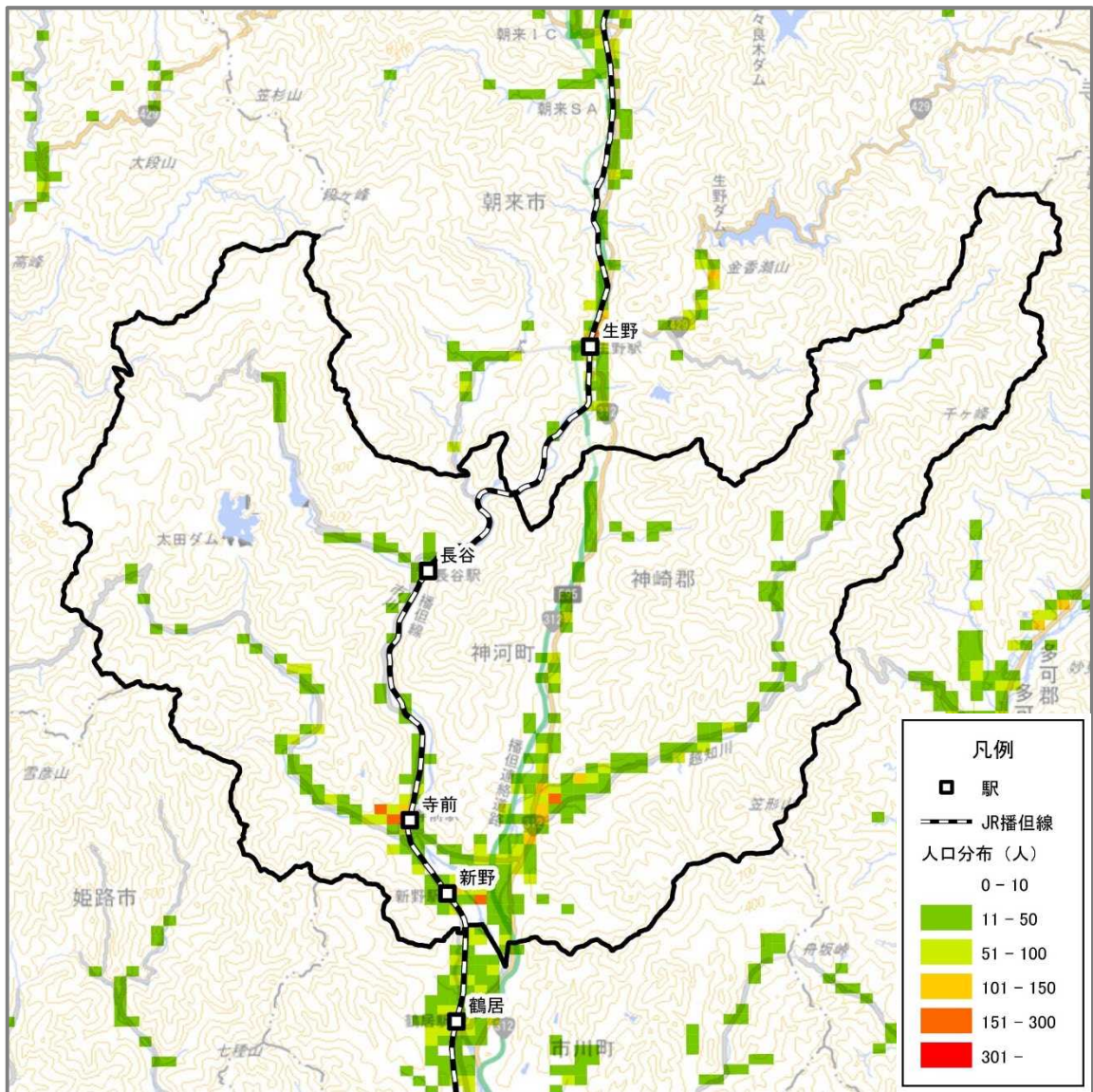


【出典】国勢調査

▲ 年齢3区分別人口割合の推移

(3) 人口分布

人口分布をみると、寺前駅や新野駅周辺、粟賀地区といった中心部や、山間部の平地に人口が分布していることがわかります。

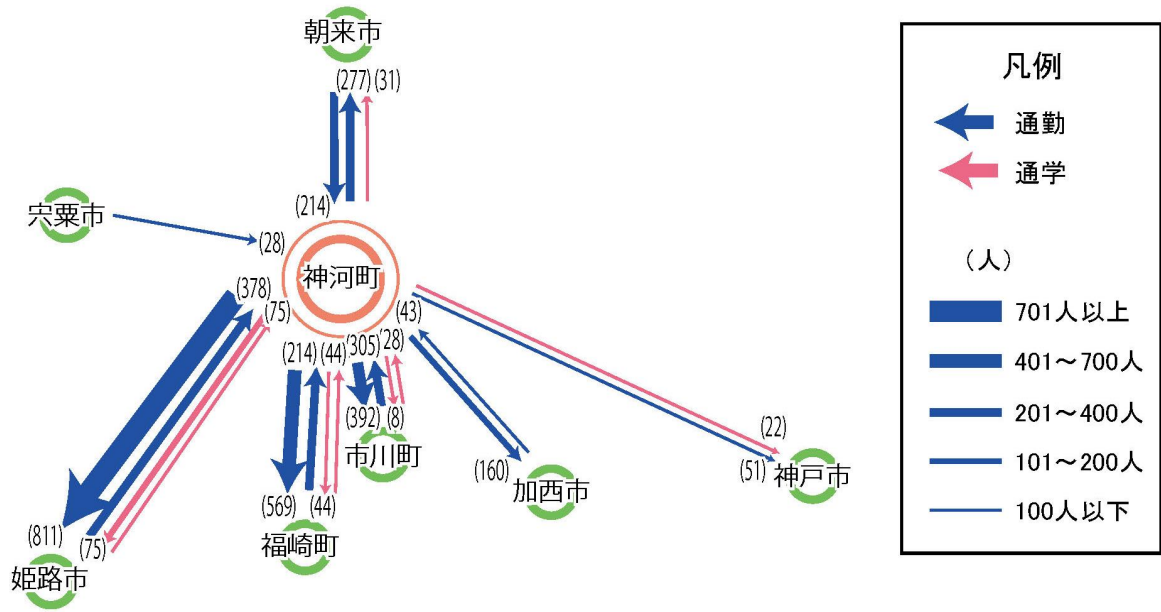


【出典】人口：国勢調査（令和2年）、背景地図：国土地理院

▲ 人口分布図

(4) 通勤・通学の状況

通勤・通学の状況を見ると、姫路市や福崎町、市川町、朝来市等が多くなっています。



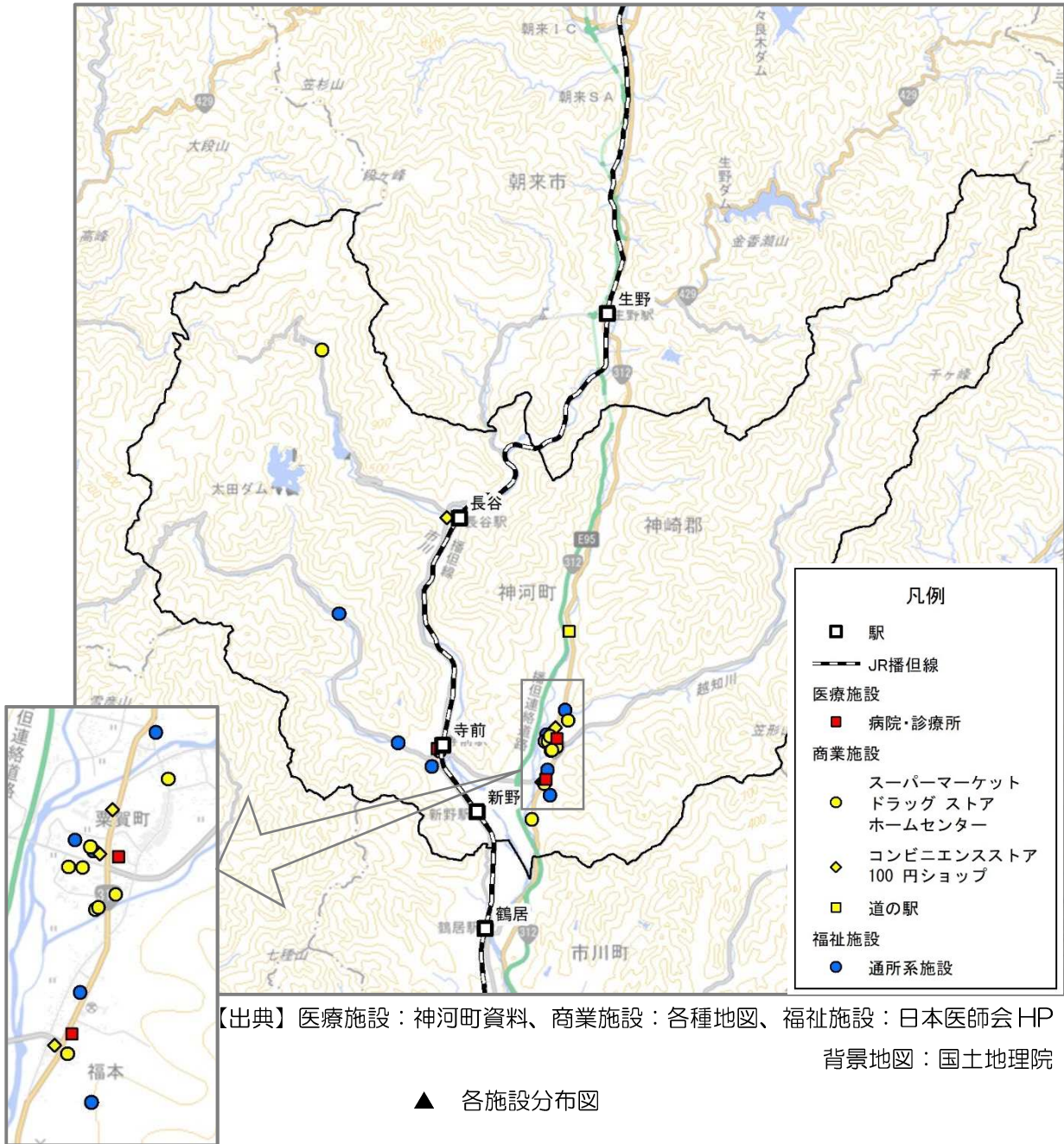
【出典】国勢調査（令和2年）

▲ 通勤・通学の状況

2.施設分布状況

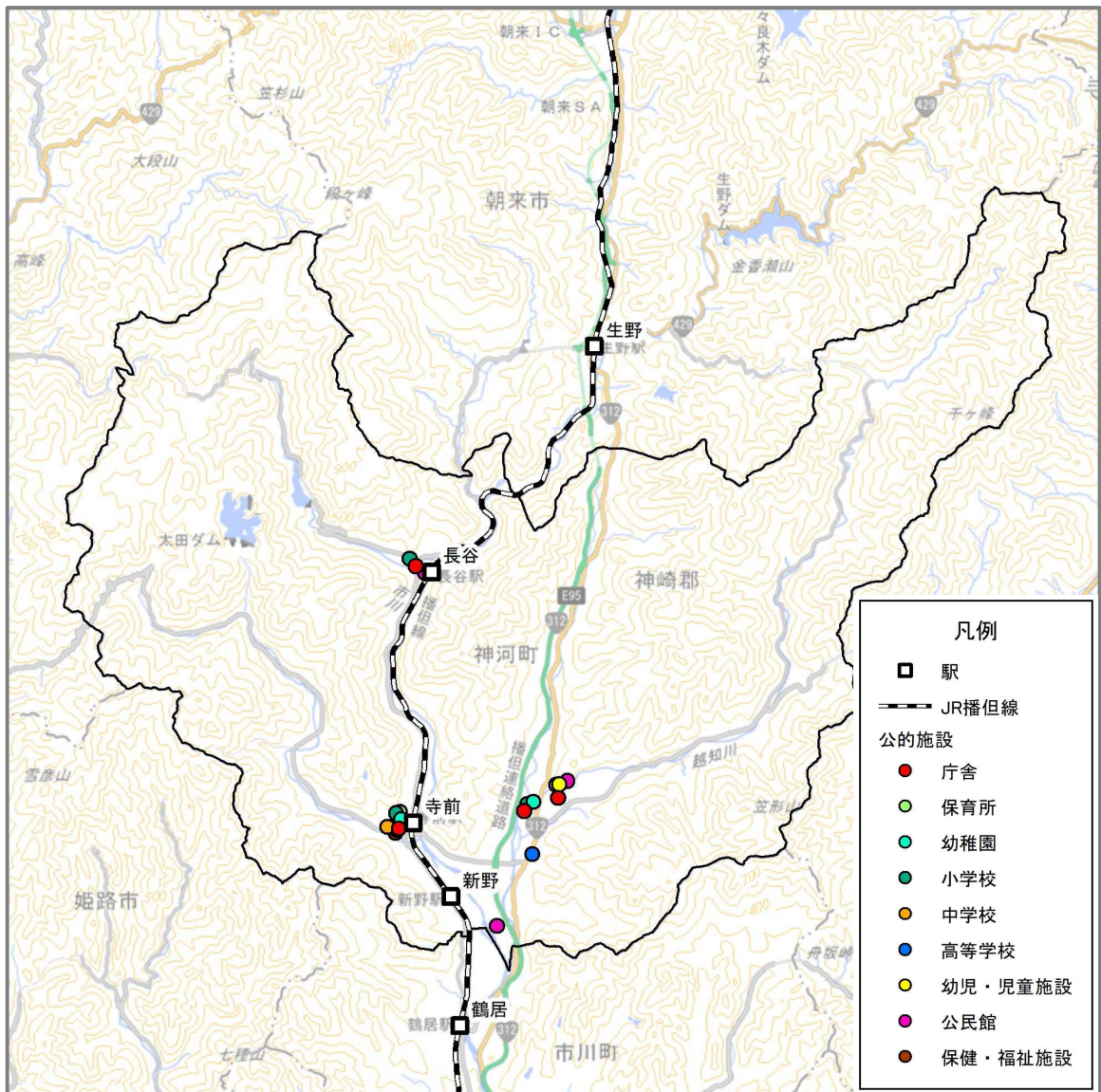
(1) 生活関連施設の分布

各施設分布の状況は、生活に必要な医療施設、商業施設、福祉施設はほとんどが粟賀地区や寺前地区に立地しています。



(2) 公的施設の分布

公的施設分布の状況は、長谷駅周辺のほか、医療施設などと同様に粟賀地区や寺前地区に立地しています

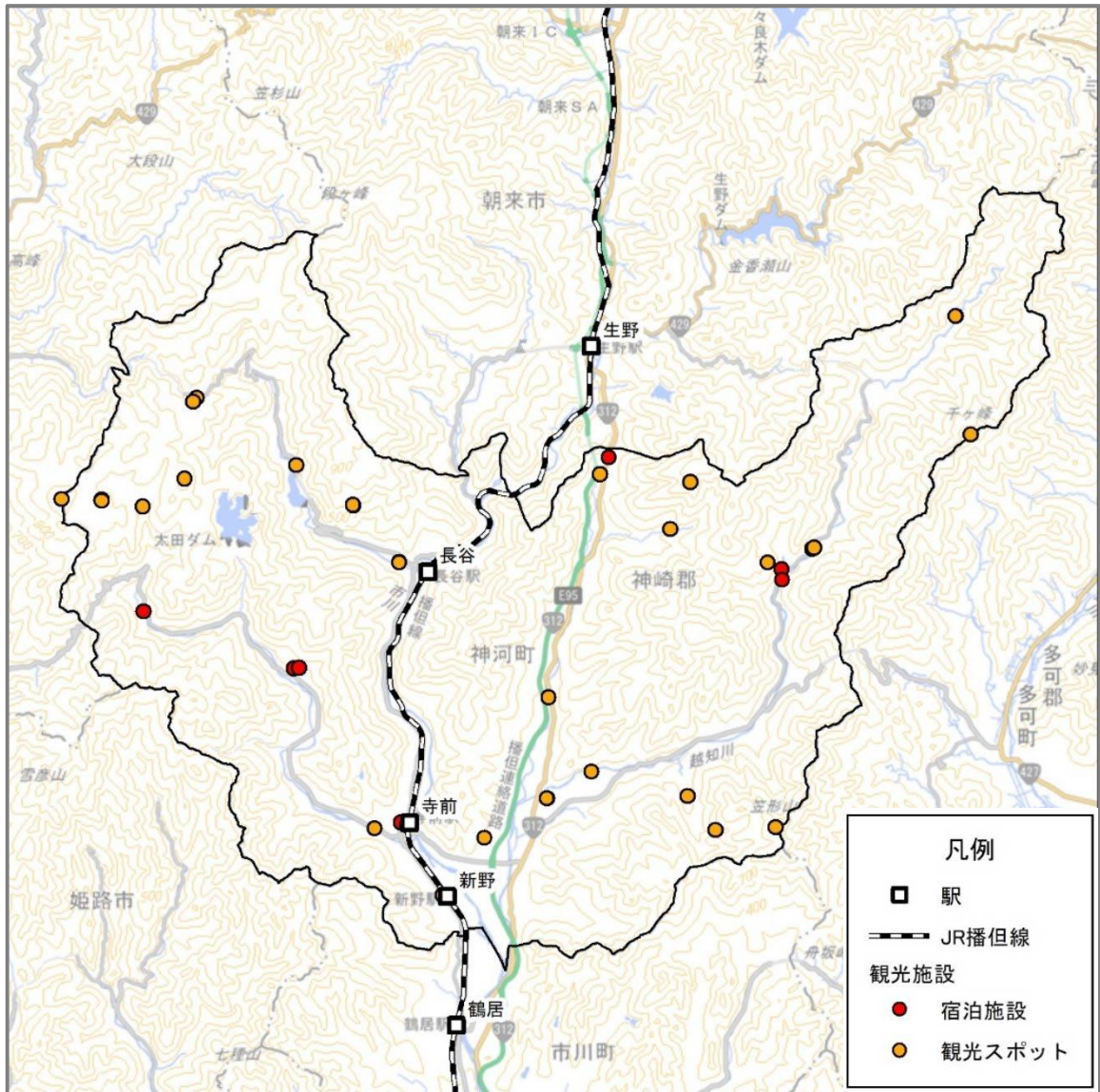


【出典】各施設：神河町資料、背景地図：国土地理院

▲ 公的施設分布図

(3) 観光施設の分布

観光施設分布の状況は、各施設や公的施設とは異なり、本町の全域に広く存在していることがわかります。



【出典】各施設：神河町公式観光サイト、背景地図：国土地理院

▲ 観光施設分布図